

## 進学経験談と感想

崔徳文

2019年10月、私は日本の亜細亜友之会外語学院に入学しました。うれしく思う反面、心細さもありました。幸いなことに、一年間努力した結果、私は理想の大学院—東京都立大学のシステムデザイン研究科に合格しました。この経験談を書くのも後輩達と情報を共有し、皆さんの役に立ちたいからです。

日本で進学するのは決して簡単ではありません。なぜなら、数多くの書類を用意しなければならない他、大学が一緒であっても、専攻が違えば、試験の内容、時期、選抜のルールなども違います。違う大学の場合はなおさらです。そのため、志望校、志望専攻の募集要項を精読し、要項通り準備しなければなりません。教授との事前連絡、出願前の準備、それから模擬試験において、亜細亜友之会外語学院の先生方が私に多くのアドバイスとサポートをして下さいました。ここでお礼を申し上げます。

まず、語学力証明書をいち早く取得して下さい。日本語と英語両方の成績が必要な場合が多いです。日本語の学習に関しては、学校の授業をまじめに受け、授業後の宿題をきちんとやって下さい。本試験の前に模擬試験の問題集をこなすのがおすすめです。英語の成績に関しては、TOEFLとTOEIC成績が多く大学の入学に認められています。TOEFLが必須でなければ、個人的にTOEICの受験をおすすめします。なぜなら、TOEICの試験問題はスピーキングとライティングがなく、選択問題がほとんどだったので、難易度はTOEFLより低いです。語学力の成績をクリアした後、教授とのコンタクトと研究計画書の執筆を始めて良いでしょう。

教授との事前コンタクトでは、教授の研究に興味があることをはっきり伝え、自分の強みや特徴をアピールできる材料、例えば語学力の成績やこれまでの学歴等を伝えられた方が良いでしょう。研究計画書を書く際、自分が研究したい内容が志望教授の研究分野との関係性を軽視せず、数多くの先行研究をこなし、完成した研究計画書を学校の進学指導の先生に添削とアドバイスを頂きましょう。ここで、私の研究計画書についてたくさんのご意見を下さった大澤先生に感謝致します。

一般的に、入学試験は筆記試験と面接に分かれ、どちらも重要で、どちらも真剣に向き合わなければなりません。

筆記試験についてです。ほとんどの大学の公式HPに過去問題、もしくはその入手方法に関する説明が載っています。過去問題は非常に参考価値のあるもので、出題範囲と出題傾向を知るのに非常に有意義な資料となりますので、是非活用して下さい。複数出願したいのであれば、出題範囲や傾向の似ている大学の入学試験に挑戦すれば、準備の量が減り、ストレスの軽減が期待できそうです。普段は、関連問題集をコツコツとこなし、毎日決めたスケジュール通りに勉強して下さい。準備の段階は辛い経験をたくさんすると思いますが、歯を食いしばって最後まで頑張らないといけません。やがて成功が訪れてくるはずですよ。私の周りには、最後まであきらめずに頑張った最終的に成功した例がたくさん存在しています。

面接に関しては、日本語の会話力と専門用語を使って説明するスキルが最も大切だと思います。ここで、私の模擬面接の練習に何回も付き合ってくれた大澤先生、本当にありがとうございました。模擬面接練習のおかげで私の日本語の表現力が上達し、自信がつかえました。本試験で聞かれた質問のほとんどが模擬面接で練習したものであったため、私は比較的余裕で面接に対応できました。筆記試験と面接で良い結果を出せば、合格はほぼ間違いないでしょう。

これまでの道のりを振り返れば、語学力の成績の取得をはじめ、研究計画書の執筆、筆記試験と面接の準備等々で直面した困難が数多くありました。亜細亜友之会外語学院の先生方、亜細亜塾の先生方のおかげで、私は理想の大学院合格を手に入れました。これらの経験が私の留学生活の一部となり、貴重な思い出となり、自分自身を磨く糧となりました。

最後に、皆さんには時間の配分を重視してほしいです。時間をムダにせず、学業に励んで下さい。勉強の時間は一番大切で、アルバイトの時間は必須ではありません。皆さんにも理想の大学院に合格できるよう、精一杯頑張ってください。